

## 学長定例記者会見要項

日 時： 2019年4月18日（木） 11:00～11:45  
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

### 発表事項

1. 研究紹介：回転するブラックホールが作る空間の歪みを調べたい！  
～ 偏光X線衛星で探る極限的重力場 ～
2. データサイエンス・スタディセッション  
～ 社会人と学生が学び合うスキルアップ環境の提案 ～
3. 国道347号通年通行の効果を調査・分析しました  
～ 国道347号を活用した尾花沢市・大石田町の活性化 ～

### お知らせ

1. 映画Mount Zao（蔵王山）の別版、蔵王の切手の元写真が見つかった  
～ 塚本閣治と今泉正路 ～
2. 2019年度開講の「フィールドラーニングー共生の森もがみ」について
3. 高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集  
～ 山形大学地域指向性向上プロジェクト ～
4. 公開講座「小説を書こう！」受講者を募集します
5. 第14回学長特別講演会「ポスト平成～キャリアは自由に大胆に～」を開催

### （参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：2019年5月9日（木） 11:00～11:45  
場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

## 学長定例記者会見（4月18日）発表者

1. 回転するブラックホールが作る空間の歪みを調べたい！  
～ 偏光X線衛星で探る極限的重力場 ～

学術研究院 教授（宇宙物理学）

ぐんじ 郡司      しゅういち 修一

2. データサイエンス・スタディセッション  
～ 社会人と学生が学び合うスキルアップ環境の提案 ～

データサイエンス教育研究推進センター代表／

学術研究院 教授（理学部担当）

わき 脇      かつし 克志

3. 国道347号通年通行の効果を調査・分析しました  
～ 国道347号を活用した尾花沢市・大石田町の活性化 ～

人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所所長／

学術研究院 教授（ミクロ経済学）

学術研究院 教授（計量経済学・統計学）

これかわ はるひこ  
是川 晴彦  
すなだ ひろし  
砂田 洋志

## 回転するブラックホールが作る空間の歪みを調べたい！

### ～偏光X線衛星で探る極限的重力場～

#### 【本件のポイント】

- NASAとイタリアが主導するX線偏光衛星の開発に参加しています。2021年からの観測により、新しいX線天文学の幕が開きます。
- ブラックホールの周りから来るX線の偏光をまだ誰も測定した事はありません。偏光観測が実現すると回転するブラックホールが作る極限的な空間の歪みを調べる事ができます。
- 理工学研究科の大学院生もサイエンスパートナーとしてこのプロジェクトに参加します。



#### 【概要】

最近世界の電波望遠鏡が協力して巨大ブラックホールを観測し、黒い穴が本当に開いていたという凄い画像が公開されました。確かに中心のブラックホールからは光さえも出てこれられないので暗いのですが、その周りからは逆に電波が沢山出ている事が画像からも分かります。これは巨大ブラックホールでも天体スケールのブラックホールでも同じで、ブラックホールに吸い込まれる直前の物質はブラックホールの周辺に集まり、そこで非常に高温に熱せられます。電波だけでなくエネルギーの高いX線もその周辺から沢山出てきます。X線も光の仲間なので、通常空間を伝わる際はまっすぐ飛んでいきますが、強い重力場が存在する場所では不思議な事が起こります。特に中心のブラックホールが回転していると、回転の効果による空間の歪みからX線の軌道が曲げられ、ブラックホールの裏側さえも見える事が予言されています。それが本当なのかを天体スケールのブラックホールで調べる良い方法がX線の偏光を測定する方法です。しかしX線の偏光測定は難しくそのような観測は今まで実現できなかったのですが、それを可能にしてくれる衛星が2021年に打ち上がります。NASAとイタリアのグループが主導するそのX線偏光衛星のプロジェクトに日本グループ(山形大学、理化学研究所、名古屋大学、広島大学、大阪大学)も参加しており、2020年の初頭にNASAで検出器の性能評価作業を行います。またデータ解析のためのプログラム開発にも日本グループは貢献しています。この度文部科学省の科学研究費補助金基盤研究A(研究代表者：山形大学 郡司修一教授)によって、このような研究を5年間推進できることが決定しました。これを機に日本におけるデータ解析の拠点を山形大学に構築する事を目指します。

また郡司教授を含む日本チームのメンバーは、NASAの研究代表者の承認を得て、自身の研究室に所属する大学院生を本プロジェクトに加える事ができます。実際に山形大学理工学研究科後期博士課程1年の斎藤 耀さんは既にサイエンスパートナーという身分でこのプロジェクトから認定されています。認定が受けられるとNASAで行う性能試験に参加することができ、現在開発中の非公開のソフトウェアを使う事もできるようになります。

#### 【背景】

天体から来るX線の偏光観測は1970年代に行われた事がありますが、偏光検出は非常に難しいため検出器の性能が十分ではなく、1つの天体に対してしか有為な観測を行うことができませんでした。しかし50年の時を超え、今回開発されているX線偏光衛星は、以前の衛星に比べ100倍の感度を達成できると期待されています。

#### ※用語解説

1. ブラックホールのサイズ：今回の電波で観測されたブラックホールは銀河の中心にある巨大ブラックホールですが、重い星が潰れてできる天体サイズのブラックホールもあります。これは半径4km程度で、電波でも、ましてやX線でも撮影は不可能ですが、X線の偏光情報を使うと重力的な空間の歪みを調べる事ができます。
2. 偏光：X線が空間を伝わる際に進行方向に対して横方向に振動しながら伝わります。その波打っている振動方向を偏光方向と呼び、その強度を偏光度と呼びます。偏光方向と偏光度をまとめて偏光情報と呼びます。

お問い合わせ

学術研究院 教授 郡司 修一 (宇宙物理学)

TEL 023-628-4555 メール gunji@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

平成31年（2019年）4月18日

## データサイエンス・スタディセッション ～社会人と学生が学び合うスキルアップ環境の提案～

### 【本件のポイント】

- データサイエンス教育研究推進センターが新設されました。
- 株式会社 YCC情報システム(以下YCC情報システム)との連携を活用して、社会人と学生が学び合うデータサイエンス・スタディセッション(以下DSSS)の試行企画を実施します。
- この企画から得られる知見を活用し、文系人材でも活用できる地域ニーズに対応した実学志向データサイエンス教育教材の開発を目指します。



データサイエンスcaféの様子

### 【概要】

本学が申請したプロジェクトが、平成31年度文部科学省共通政策課題「数理・データサイエンス教育強化経費」に採択され、4月より「データサイエンス教育研究推進センター」（以下センター）新設されました。センターによる今後のデータサイエンス教育教材の開発を推進するため、YCC情報システムの協力を得て、データサイエンス分野のスキルアップを目標とする社会人と学生の学び合いDSSSを開催します。センターでは、まず参加希望社会人との面談を通して、目指すべきスキルアップに向けた学習プランを作成します。そしてこの学習プランで共に学ぶ学生を募集し、参加学生と社会人がプレゼンテーションや議論を通して、知識・技能への理解をより深めてもらう場がDSSSです。センターは、DSSSでの学生と社会人との議論を参考にしながら、実践的であることからの社会人に必要となるデータサイエンス教育の教材を開発していきます。

### 【DSSS】

時間的な余裕は無いがスキルアップを目指したい社会人と、時間はあるが今後のスキルアップに向けた明確な方向性を見いだせずにいる学生が、協働することで今までにない教育システムを構築することを目指します。

今回、YCC情報システムの社員に向けて

DSSSの趣旨を説明させていただき、スキルアップを目指す土田直美さん(産業システム部)と大沼千陽さん(医療システム部)に参加いただくこととなりました。両名との面談を通して、スキルアップの方向を定め、センターから学習プランを提示しました。現在、ポスター及びWebページ(※)を使って、この学習プランで一緒に学ぶ学生を募集しています。参加学生は、理学部2号館5階にあるデータサイエンス多目的ホールが利用可能で、プレゼンや議論などを通して土田さん、大沼さんと共に学習内容の理解を深めます。

(※) <https://www.yamagata-univ-derp.org/info>

### ◎それぞれのメリット

- ・社会人：自習だけでは得られない新鮮な刺激から継続的な学びにつながり、不明な点を学生と議論しながら解明していくことで、深い理解が得られます。
- ・学生：卒業後に必要となるスキルを学ぶ上で必要となる知識が分かり、社会人との交流を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が磨かれます。
- ・大学：社会人が求めているスキルを把握し、参加者サポートを通して、今後有償で提供する学習教材の開発・改良に必要な情報を得ることができます。

お問い合わせ

学術研究院教授 脇 克志 (データサイエンス教育研究推進センター 代表)

TEL 023-628-4637 メール waki@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

## 【今後の展望】

今回の試行企画の結果をふまえて、一緒に学んでいただける社会人を山形県全体から広く募集します。データサイエンス多目的ホールでは、複数の参加者が同時に会話することが可能なテレビ会議室システムが利用可能です。このシステムは、データサイエンス café で遠隔地へのプレゼンの手段として積極的に活用しています。また学生も山形大学に所属する学生に限定せず、大学コンソーシアムから広く参加を呼びかけることを計画しています。



平成31年（2019年）4月18日

## 国道347号通年通行の効果を調査・分析しました

～国道347号を活用した尾花沢市・大石田町の活性化～

### 【本件のポイント】

- 国道347号の通年通行の効果について、通行量や観光客数のデータや、企業・観光客へのヒアリングにもとづいて分析し、国道347号を尾花沢市や大石田町の活性化に活用する視点や手法について考察した。
- 冬期通行に向けた道路改良の効果は冬期以外の季節にも及んでおり、山形を訪れた観光客の滞在時間の増加が確認された。
- 蕎麦、温泉、団子など体験型観光資源による回遊性の創出や、銀山温泉、徳良湖のような冬や雪をテーマにできる観光資源の活用が期待される。



改良工事中の国道347号

### 【概要】

国道347号は改良工事の結果、平成28年に通年通行が実現しました。人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所は尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会から委託を受け、国道347号の通年通行が尾花沢市や大石田町の活性化に与える効果について2年間に及ぶ調査研究を行いました。通行量のデータを分析して車両通行の特徴や変化を考察したほか、企業や観光客へのヒアリングや観光客数のデータ分析によって、国道347号の地域活性化に向けた活用の方法について検討しました。尾花沢市・大石田町には蕎麦・温泉といった体験型の資源が多く存在し、大石田の団子店は回遊性の核となる施設として位置づけられます。また、銀山温泉や徳良湖は冬期にも集客力をもつ資源です。このような他地域と差別化できる資源を車で回遊する観光モデルを構築していくうえで、国道347号の通年通行は大きな役割を果たすことができます。

### 【研究手法・研究成果】

- ①通年通行に向けた道路改良工事の恩恵は冬期以外の通行にも及んでおり、通行量は増加傾向にあります。休日の通行量は平日の約3倍であり、ピーク時間帯の分析から、観光目的で宮城から山形へ訪れる人が多いことが確認されました。計量モデル分析によって、平日・土日の差、GWの増加効果などを数量的に把握しました。
- ②通年通行により、休日の午後に宮城方面に移動するピークが1時間遅くなったことが確認されました。山形を訪れた観光客の滞在時間が長くなったと考えられ、道路改良工事の効果の一つといえます。
- ③アンケート調査により、宮城から尾花沢・大石田に来る人の多くは蕎麦と温泉を目的にしていること、日帰り客が多いことがわかりました。大石田の蕎麦店や温泉を訪れた人は、団子店に寄る傾向があります。
- ④銀山温泉、徳良湖では冬期間の観光客が増加し、道路改良の効果が表れています。冬や雪をテーマにできる観光施設であることの特徴が活かされています。
- ⑤尾花沢や大石田の企業は最短距離で大崎市に移動できる点で国道347号のメリットを感じています。他方、企業は輸送の安全性や確実性を重視しています。全区間で携帯電話の通話が可能になること、道路状況をリアルタイムで発信することなど、冬場のリスク対応策によって国道347号の物流利用の促進が期待できます。

### 【国道347号の活用の視点・尾花沢市、大石田町の活性化に向けて】

- ①蕎麦、温泉、団子を組み合わせた車による回遊性を創出し、日帰り観光を推進していく
- ②リピーターを増やしていく・蕎麦、温泉、団子の活用 ⇒ 経験型の観光資源であり、差別化がしやすい
- ③道路改良によって山形側の滞在時間が長くなったことを活性化にどのようにつなげるか
- ④目的地としての「点」に加え、移動の「線」からも満足を得てもらう取り組み・沿線の休憩所設置など

調査・研究担当：高橋和，砂田洋志，山田浩久，阿部晃士，山本匡毅，吉原元子，是川晴彦

お問い合わせ 人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所  
所長 学術研究院教授 是川晴彦（ミクロ経済学/人文社会科学部主担当）  
TEL 023-628-4273 メール korekawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年4月18日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 映画Mount Zao（蔵王山）の別版、蔵王の切手の元写真が見つかった ～ 塚本閣治と今泉正路 ～

柳澤文孝教授（地球科学）が、映画Mount Zao（蔵王山）の別版及び蔵王の切手のもとになった写真について、文献等から考察しました。

## 2. 2019年度開講の「フィールドラーニングー共生の森もがみ」について

平成18(2006)年度から実施している最上地域をバーチャルキャンパスとしたフィールドラーニング。今年度は前期・後期あわせて26プログラムを展開します。

## 3. 高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集

山形大学は「山形大学地域指向性向上プロジェクト」として、地域社会との連携をより深める事を目的に、第12回山形大学高校生朗読コンクールおよび、第8回群読劇を9月16日（月・祝）に開催します。今回は米沢市で初めての開催です。

東北6県の高校生を対象として開催する朗読コンクールの出場者、市民の皆さまと学生とで作り上げる群読劇への出演者を募集します。

## 4. 公開講座「小説を書こう！」受講者を募集します

山形大学では平成26年度以降毎年開催している公開講座「小説を書こう！」を今年度も開講します。受講される方は自作未発表の小説を提出していただき、合評と直木賞作家の高橋義夫さんのアドバイスを受けることができます。

日 程：6月5日（水）～8月7日（水） 毎週水曜全10回

受講資格：高校生以上であればどなたでも受講できます。（定員30名）

受 付：4月22日（月）～定員に達するまで

## 5. 第14回学長特別講演会「ポスト平成～キャリアは自由に大胆に～」を開催

山形大学の3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を発信するため、シリーズで開催している学長特別講演会の第14回目の開催が決定しました。講師に、EYトランザクション・アドバイザリー・サービス株式会社パートナーの小林暢子（こばやし のぶこ）様をお迎えして実施します。

テーマ：ポスト平成～キャリアは自由に大胆に～

日 時：4月22日（月）16:30～18:00

場 所：山形大学小白川キャンパスA6（基盤教育2号館）221・222

※裏面へ続く

## ※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

### ◎小学生対象「みんなで楽しむ科学実験教室」を開催

山形大学SCITAセンターでは、山形県産業科学館（霞城セントラル4F）において、小学生を対象に科学の楽しさを体験してもらうイベント「みんなで楽しむ科学実験教室」を開催します。

日時：平成31年(2019年)4月21日（日） 10時30分～12時15分／13時00分～14時30分

場所：山形県産業科学館（山形市城南町1丁目1-1霞城セントラル2F/4F）

※参加無料



平成31年（2019年）4月18日

## 映画Mount Zao（蔵王山）の別版、蔵王の切手の元写真が見つかった ～ 塚本閣治と今泉正路 ～

### 【本件のポイント】

- 映画「Mount Zao（蔵王山）」には前駆作品として塚本版・今泉版など複数の版が存在した。
- 昭和26年に発行された切手「蔵王山中腹の樹氷」の原版は「Mount Zao（蔵王山）」撮影の際に写した塚本の写真である。一方、今泉は塚本の隣で同じ被写体を撮影しており、こちらの写真は絵葉書となった。



### 【概要】

塚本閣治監督・今泉正路撮影の映画「Mount Zao（蔵王山）」は山形国際ドキュメンタリー映画祭で公開されて大きな話題となった。映画の撮影は昭和10年2月に蔵王で行われ、同年3月～5月頃に塚本版（表題不明）と今泉版（白魔は招く）の2つが同時公開された。これら2作品と「Mount Zao（蔵王山）」はほぼいっしょの内容である。塚本は昭和11年2月にアーノルド・ファンク監督に蔵王の樹氷の映画を見せたことで、蔵王にファンク撮影隊が送られることになった。塚本が監督した蔵王の樹氷の映画は、英語の字幕を付して昭和11年11月にロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会に出品され、優勝している。

映画撮影時に、同じ被写体を同時に撮影した写真があり、塚本版は昭和26年に発行された切手「蔵王山中腹の樹氷」の原版となり、塚本の隣で撮影していた今泉版は絵葉書となった。

## 1. Mount Zao（蔵王山）について

### 【経緯】

平成19年に行われた山形国際ドキュメンタリー映画祭において塚本閣治監督・今泉正路撮影の映画「Mount Zao（蔵王山）」が公開されて大きな話題となった。同映画は国際映画祭で優勝し、そのあと、来日したアーノルド・ファンク監督に見せたことで、蔵王にファンク撮影隊が送られることになったとされてきた。

平成20年に映画「Mount Zao（蔵王山）」の別版かもしれないものの存在を確認したが、同版の位置づけは不明であった。平成30年になり、コーボルト・ヒュッテ・ブーフの昭和11年3月19日に「今泉正路（東京鉄道省）・三井高索（東京）・藤村敬（東京）・清水丈典（秩父）・柴崎高陽（上田） 昨年2月「白魔は招く」を撮影に来たのも此のヒュッテ今度又白魔に招かれて来たが樹氷が先日の雨のため落ちて終わって少々ヒカン今日朝少し日が照り出したので高湯を出たが又ガスに包まれて風も相当（約7m）で今日は撮影出来ないので二日位又此のヒュッテにお世話になる 高湯青年団の方に五六名出場してもらおう可く一所に来たが今日は一先づ引上げ明日又此のヒュッテに来る約束である。・・・」との記載を見つけた。

映画「Mount Zao（蔵王山）」は当初、別のタイトルで撮影されていた可能も考えられたことから、映画撮影の前後について調査を行った。

### （お問合せ先）

学術研究院 教授 柳澤文孝（環境科学）  
（山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所長）  
電話 023-628-4648

## 【結果（表を参照）】

蔵王における映画の撮影は昭和10年2月に行われた（伊東五郎 蔵王五十年の歩みとスキーの発達）。その後、塚本版（表題不明）と今泉版（白魔は招く）の2つの映画が公開された（キネマ旬報、山と渓谷、婦人文藝、日本映画情報システムなど）。公開時期は昭和10年3月頃から5月頃である。あらすじから見て、内容はほぼいっしょである。同時期に類似した2つの映画が存在していたことで問題となったとの記録は残っていない。また、その件について言及した文書も見つかっていない。一方、塚本は昭和26年に「白魔に追はれて（蔵王山）」という表題の写真を公開している。一般に「白魔」という用語は大雪・なだれ・吹雪等に対して使われており、樹氷に対して使われている例は今泉・塚本を除くと少数である。これらから塚本と今泉の間の強い協力関係が示唆される。

昭和11年2月、塚本は来日したアーノルド・ファンク監督に二十数本の山岳・スキー映画を見せている。これが契機となって「日本スキー発達史（圓谷英二監督）」の撮影隊が蔵王に送られることになった（山と渓谷）。映画を見たことに対して非難するむきもあったようだが、塚本はこれを一蹴している（山と渓谷）。

公開当時、塚本は蔵王の映画を山・小鳥・海底・富士山・白鳥などといっしょに公開していることから、自然科学映画の一つとして扱っていたと考えられる。また、映画を鑑賞した人の手記には「蔵王の樹氷の映画」というのみで映画のタイトルは記録されていない。一方、アーノルド・ファンク監督が蔵王に撮影隊を送る事になったことを考えると、塚本の蔵王の映画はよほど印象的だったのであろう。塚本氏は、アーノルド・ファンク監督との対談をきっかけとして蔵王の映画を国際映画祭に出品することになったとも考えられる。

Mount Zao（蔵王山）は英語の字幕がつけられ、昭和11年11月にロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会に出品され、優勝した。優勝の報は、昭和12年2月に吉田駐英大使より伝えられたが、優勝カップは国外持ち出し禁止のため優勝カップの写真のみが塚本監督に届けられた（アサヒカメラ）。

## 【今後の課題】

映画「Mount Zao（蔵王山）」の別版（？）について、試行錯誤の過程（日本語版？ 英語版？）であるかもしれないが、昭和10年に撮影された以外のことは不明である。なお、塚本の映画は年間に百回以上の映画会が開催されるほど好評であったことから、何本か用意されたうちの1本である可能性も考えられる。

## 2. 蔵王山の切手について

### 【経緯】

逓信省は昭和26年2月に8円と24円の蔵王山の切手を発行している（図1、図3）。図案は共に「樹氷とスキーヤー」で、8円切手は昭和22年に堀修一氏が、24円切手は塚本閣治氏が昭和10年に撮影した写真をもとに図案化されたとされている。

これに対して、高山英夫氏（こうやまひでお：大正から昭和初期に山形高等学校の事務官をしていた）は「この記念切手の写真原画は撮影となっているが 人物2人は前者は寒河江幸雄氏 後者は小生である。いつ、写されたものかわからない。ざんげ坂の樹氷地帯のもので、或いは佐藤定男君の原版か。佐藤君とはよく一緒に蔵王にでかけたので」とのメモを残している（高山文夫 蔵王花心 2013年）。そこで、写真について調査を行った。

## 【結果（表の黄色を参照）】

8円切手と同じ構図の写真は、戦後に出版された堀修一撮影と記載された絵葉書集から見つかった（図2）。一方、24円切手と同じ構図の写真をアサヒカメラ昭和11年2月号から見つかった（図4）。同写真は昭和11年1月にサヒカメラが開催した「冬山とスキー写真展覧会」に出品されたもので、蔵王山樹氷群（塚本閣治）と記載されている。

なお、塚本閣治氏が撮影したと同じ被写体がほぼ同じ構図であるが、アングルが異なる写真が絵葉書から見つかった（図5）。撮影者は今泉正路氏である。影の位置も同じであることから、2つの写真はほぼ同時に撮影されたと推定される。塚本閣治氏（塚本商会・国際観光局嘱託）と今泉正路氏（東京鉄道局z）は映画の撮影のため昭和10年2月に蔵王を訪れていることから、スチール写真等の目的で、2人がほぼ同じ場所で同時に同じ被写体の撮影を行っていたと考えられる。立ち位置としては、蔵王山に向かって塚本閣治氏が右手側で今泉正路氏が左手側となる。

今泉正路氏が撮影した写真は山形蔵王・宮城蔵王等の絵葉書に使われている。今泉正路撮影と記された絵葉書や絵葉書集も出版されていることから、蔵王とは古くから（昭和7年以前から？）交流があり、絵葉書への写真の提供なども行われていたと考えられる。

## 【切手の被写体について】

塚本・今泉と類似性のある生写真が残されている。撮影者は佐藤定男氏（吉野屋エハガキ店）と推定される。しかし、影が違っていることなどから、塚本・今泉の撮影とは異なっていると考えられる。

		塚本閔治	???	今泉正路	あらすじ等
昭和10年	2月	コーボルトヒュッテに滞在して映画撮影(伊東五郎 蔵王五十年の歩みとスキーの発達)			樹氷映画撮影 樹氷の最もよい二月に小型山岳映画の開拓者塚本閔治氏、鉄道は今泉正路氏によって蔵王の樹氷が撮影された。この時の樹氷エキストラは岡崎忠君、佐藤伊工門くん、岡崎弥平君、堀清吉君等で縦横に駆使したのである。
		コーボルトヒュッテに滞在して写真撮影			
	3月	「蔵王山の樹氷風景?」(飯田心美 キネマ旬報1935年3号 塚本閔治の作品を見る)編集が終わっていない? 弁士は塚本閔治	-	-	蔵王山名物の樹氷を主題としたもので、これは山形から登山スキーの一行が出発するところから始まっている。まず一行は、蔵王山麓の最上高湯に辿り着く。天候険悪のため、その回復を待つこと三日、雪の坂道を滑る街の子供等のソリ遊びを見物したりして、四日快晴の朝の冷気について温泉地を発足、蔵王山に登るのである。風の強いことをもって名高いこの山は、冬季に入るとともに全山に散在する針葉樹を降り積もる雪と一つ残らず凍らせてしまふ。北海道に行っても見られないといふ奇怪なる景観がここに展開される。綿帽子をかぶった大入道のやうな樹氷の点在は、さながらお伽噺に出て来る魔物の園のやうだ。見れば見るほど魁偉な形相、或るものは地にうづくまり、或るものは空を仰ぐ、グロテックな樹氷の列は見渡すかぎり涯なくつついている。...それら怪物の群像を縫って一行のスキー滑走が始まるのである。スキーを組み立てて椅子の代わりに休む場面、樹氷に衝突して自分自身が雪たるとなる場面、これは山岳映画の大家アーノルド・ファンクにも見せて喜ばせたいくらの特殊な写真だ。
	7月			今泉正路「白魔は招く」(? 山と溪谷 昭和10年7号 映画の頁)	今泉正路 鉄道省の電気局にいる技術者である。さくら小型映画会やオリエンタルシネマ協会の幹事で比較的固い写真をとる人だ。最近の作品に「白魔は招く」と云ふらしい題名の写真があるが、これは半郷から馬そりで高湯に至り、コーボルトヒュッテを経て粉雪立ち上る春の蔵王山を撮ったもので、帰途土地の青年が名物のオハケ群の中を縫って粉雪をあげる素晴らしい場面がある。
		「科学知識」主催の会で上映された塚本閔治監督作品8編の中で「妖精が踊るという蔵王の樹氷」の映画を見た(栗原章子 婦人文藝 昭和10年7号)	-		「科学知識」主催で国際的に有名な塚本閔治氏の16ミリ作品を見た。伊豆沖海底の写真や、「妖精が踊る」という蔵王の樹氷、大白鳥の飛来等八編(栗原章子 婦人文藝 昭和10年7号)
昭和11年	1月	昭和10年に蔵王で撮影した「蔵王山樹氷群」が、アサヒカメラ主催の「冬山とスキー写真展覧会」で展示されると共に、アサヒカメラ昭和11年2号の冬山とスキー写真傑作集に掲載された。	-	-	-
	2月	「蔵王の樹氷」等の小型映画をアーノルド・ファンクに見せる(山と溪谷 昭和11年 塚本閔治)	-	-	-
	3月19日	-	-	コーボルトヒュッテに滞在して写真撮影。昨年2月にもコーボルトヒュッテに滞在して「白魔は招く」を撮影とコーボルトブーフに記載	今泉正路(東京鉄道省)・三井高乗(東京)・藤村敬(東京)・清水丈典(秩父)・柴崎高陽(上田) 昨年2月「白魔は招く」を撮影に来たのも此のヒュッテ今度又白魔に招かれて来たが樹氷が先日の雨のため落ちて終わって少々ヒカン今朝少し日が照り出したので高湯を出たが又ガスに包まれて風も相当(約7m)で今日は撮影出来ないで二日位又此のヒュッテにお世話になる 高湯青年団の方に五六名出場してもらおう可く一所に来たが今日は一先づ引上げ明日又此のヒュッテに来る約束である。あした天気になるように。
	11月	「Mount Zao」がロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会に出品される	-	-	-
	11月27日	-	-	東京小型映画協会第33回例会で上映(日本映画情報システムによる)	-
昭和12年	2月16日	ロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会で「Mount Zao」が優勝したことが吉田駐英大使より伝えられたが、国外持ち出し禁止のため優勝カップの写真のみが届く(アサヒカメラ 昭和13年3号)	-	-	-
	?	-	-	全日本バレーシネ協会主催第6回国際コンテスト日本大会推薦作品(日本映画情報システムによる)	-
昭和10年代	-	-	-	昭和10年に撮影した写真が絵葉書となる	-
昭和21年	2月	白魔に追はれて(蔵王山) CAMERA 昭和26年2号	-	-	-
昭和26年	2月	昭和10年に撮影した写真が切手(蔵王山中腹の樹氷)となる	-	-	-
平成19年	10月	山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映(監督:塚本閔治、撮影:今泉正路)			山形蔵王ヘスキー登山に訪れた一行は、悪天候で高湯温泉に逗留を余儀なくされながらも、やがて迎えた快晴に喜び、樹氷の生い茂る蔵王の雪山を滑走する。(山形ドキュメンタリー映画祭 公式カタログ)
平成20年	-	-	未公開?	-	蔵王を訪れた一行は、悪天候で温泉に逗留後、蔵王で滑る。



図1：切手（ザンゲ坂下の樹氷）



図2：絵葉書（堀修一）



図3：切手（蔵王山中腹の樹氷）



図4：写真（塚本閣治）



図5：絵葉書（今泉正路）

平成31(2019)年4月18日

## 2019年度開講の「フィールドラーニング-共生の森もがみ」について

### 【本件のポイント】

- 平成18(2006)年度から実施している最上地域をバーチャルキャンパスとしたフィールドラーニングの集中講義科目
- 今年度は26プログラム実施（前期・後期合計）
- これまでに受講した学生は延べ3,200人



### 【概要】

山形大学では、学生の主体的学びと最上地域の活性化を目的に、平成17(2005)年3月に、最上広域圏の8市町村をそのまま山形大学のキャンパスに見立てたバーチャルキャンパス「エリアキャンパスもがみ」を設立しました。このエリアキャンパスもがみをフィールドとして、平成18(2006)年度から基盤共通教育の集中講義を開講しており、学生たちは毎年もがみでの活動を通して多くのことを学んでいます。これまでに受講した学生は延べ3,200人にのびります。開講科目「フィールドラーニング-共生の森もがみ」は、地域固有の本物の自然や地域に根ざした歴史・文化を活用して、「環境」と「人」とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生に直に感じてもらうために企画された授業です。受け入れ側の市町村に、地域の特色を現す講師を提供いただき、この「達人講師」の指導の下、2019年度は前期・後期合わせて26プログラムを展開します。

### 【テーマ】

自然豊かな最上広域圏でのフィールドラーニングを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。

### 【目標】

課題発見能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、行動力、社会性の基礎的な力を身につけること。

### 【授業の方法】

この授業は、各自が複数のプログラムの中から1つを選択して受講します。各プログラムは、1泊2日のフィールドラーニングに2回参加することを中心とし、事前学習、中間学習、事後学習を行います。また、フィールドラーニング終了後の各学期末に、「活動報告会」を行います。

◆各プログラムの詳細はホームページからもご覧いただけます。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/mogami/06.html>

※取材の際は、下記担当までご連絡くださいますようお願いいたします。



お問い合わせ

小白川キャンパス事務部教務課教育企画担当（佃、日塔）

TEL 023-628-4707 メール [acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



平成31年（2019年）4月18日

## 高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集 ～山形大学地域指向性向上プロジェクト～

### 【本件のポイント】

- 第12回山形大学高校生朗読コンクールの出場者及び第8回群読劇の出演者を募集します。
- 群読劇は、基盤共通教育の授業「舞台をつくる2019」を受講する本学学生が、授業の一環として企画・運営します。
- 米沢市での開催は初めてです。



### 【概要】

山形大学は「山形大学地域指向性向上プロジェクト」として、地域社会との連携をより深めることを目的に、第12回山形大学高校生朗読コンクール及び第8回群読劇を、9月16日（月・祝）に伝国の杜置賜文化ホール（米沢市）にて開催します。

山形大学高校生朗読コンクールは東北6県の高校生を対象に平成20年度から実施しており、今年度は岩手県出身の宮沢賢治の永遠の名作、「風の又三郎」（宮沢賢治）を課題文として、出場者を募集します。また、同時開催の群読劇は、平成24年度から始まり、本年度も本学学生が山形の市民の皆さま、子どもたちとともに朗読劇「銀河鉄道の夜」（宮沢賢治）を制作・上演します。5月から開始される稽古に向け、出演者を募集します。

### 【開催・募集要項】

日 時：2019年9月16日（月・祝）13時00分～17時00分（予定）  
場 所：伝国の杜 置賜文化ホール（山形県米沢市丸の内一丁目2番1号）

#### 第1部 第12回山形大学高校生朗読コンクール

～予選審査を通過した高校生達が、課題文をリレーで朗読する姿は圧巻です～

課題文：宮沢賢治「風の又三郎」

応募資格：東北6県在住の高校生又は各県内の高校・中等教育学校に在学中の高校生

#### 第2部 第8回群読劇

～酒田市出身の演出家佐藤正文氏の指導の下、本学学生が市民の皆さまと共に舞台を創り上げます～

上演作品：宮沢賢治「銀河鉄道の夜」

応募資格：本番、リハーサルと原則として全ての稽古に参加可能な方（20名程度、先着順）  
年齢や性別、演劇の経験の有無等は問いません。

※応募方法は、いずれも別紙チラシに記載しておりますのでご確認ください。

### 【背景】

山形大学は東日本大震災により地域が分断された東北に、文化によるネットワークを構築することを目的に、平成24年度から山形大学特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」として、高校生朗読コンクールと同時に群読劇を開催してきました。平成30年度から、地域社会との更なる連携の深化を図り、プロジェクト名を「山形大学地域指向性向上プロジェクト」に一新しました。昨年度、高校生朗読コンクールは75名の応募者から11名が本選へ出場し、群読劇は本学学生と一般参加者の43名により上演され、150名の方々にご来場いただきました。

お問い合わせ 山形大学エンrollment・マネジメント部社会連携課（担当：五味、佐藤）  
TEL：023-628-4844 FAX：023-628-4144 メール embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



# ☆☆ 出演者募集 ☆☆

## 群読劇 『銀河鉄道の夜』

山形大学では、地域社会との取り組みの一環として、毎年、一般市民の皆さまと共に作り上げる舞台を上演しています。8回目の開催となる今年度は、宮沢賢治原作の「銀河鉄道の夜」を取り上げます。演出家佐藤正文氏（酒田市出身）が手掛ける舞台で、山形大学生と一緒に感動的な舞台を作り上げましょう！

申込×切  
**5/17(金)**  
まで



平成30年度上演  
『走れメロス』  
本番の様子

**募集人数** 20名(先着順)

**参加資格** 本番、リハーサルと原則として  
全ての稽古に参加可能な方

※年齢や性別、演劇の経験の有無等は問いません。

※稽古・上演に係る経費等の負担を出演者をお願いすることは  
ありませんが、稽古場・劇場までの交通費等は各自でのご負担  
となります。また、出演料等はお支払いいたしません。



### 稽古

会場：山形大学小白川キャンパス  
時間：18:00～20:30

2019年 5月24日(金)  
6月14日(金)  
7月12日(金)  
7月30日(火)  
7月31日(水)  
9月13日(金)  
9月14日(土) 午後

### リハーサル

会場：伝国の杜 置賜文化ホール  
(山形県米沢市丸の内一丁目2番1号)

2019年 9月15日(日) 午後～夜  
16日(月・祝) 午前

### 本番

会場：伝国の杜 置賜文化ホール

2019年 9月16日(月・祝)  
13:00～17:00

※第12回山形大学高校生朗読コンクールと同時開催  
※リハーサル・本番は山形市から大型バスで移動予定

お問合せ  
お申込み

山形大学エンロールメント・マネジメント外部社会連携課 (担当：五味、佐藤)  
TEL：023-628-4844 FAX：023-628-4144  
E-mail: embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈申込先〉 山形大学インフォメーション・マネジメント学部社会連携課  
FAX : 023-628-4144 TEL: 023-628-4844  
E-mail : embml @jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## 2019年度 山形大学地域指向性向上プロジェクト 群読劇「銀河鉄道の夜」出演申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上、E-mailまたはFAXにて申込先までお送りください。電話でのお申し込みも受け付けます。

ふりがな お名前		性別	年齢
		男・女	歳
ご住所	〒 -		
連絡先電話番号	ご自宅 :	-	-
	携帯電話 :	-	-
F A X		-	-
E-mail		@	

※今回記載して頂いた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

山形大学地域指向性向上プロジェクト

第12回山形大学

高校生朗読コンクール

出場者募集

予選課題

宮沢賢治「風の又三郎」

第12回を迎える山形大学高校生朗読コンクール、今年の予選課題は

岩手県出身の宮沢賢治の永遠の名作、「風の又三郎」の冒頭部分としました。

小さな小学校の教室に見知らぬ男の子がいるのを見付けた

子どもたちの戸惑いを描いた印象深い場面です。

例年たくさんの高校生に応募をいただいている本コンクール。

今年度も東北地方の多くの高校生の応募をお待ちしております。

## 東北6県の高校生から出場者を募集します

山形大学地域指向性向上プロジェクト

第12回山形大学高校生朗読コンクール

本選について

課題：宮沢賢治「風の又三郎」(出場者それぞれに朗読箇所を指定)

日時：2019年9月16日(月・祝) 13:00~17:00

会場：伝国の杜 置賜文化ホール

(〒992-0052 山形県米沢市丸の内一丁目2番1号)

主催：国立大学法人山形大学

**応募資格** 東北6県(青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島)在住の高校生、または各県内の高校・中等教育学校に在学中の高校生。  
※高等専門学校生は1年生から3年生までとします。  
同一高校からの応募人数制限は設けません。

**予選課題** 宮沢賢治「風の又三郎」(ページ数は現行の新潮文庫版に基づく) 297ページ3行目「どっどど どどうど どどうど どどう」より 300ページ15行目「ああわかったあいつは風の又三郎だぞ。」まで

**応募締切** 2019年6月28日(金)(当日必着)

裏面に予選募集要項があります→



# 第12回山形大学高校生朗読コンクール

2019年9月16日(月・祝) 13:00～17:00

## 東北6県の高中生から出場者を募集します

### ◎ 予選募集要項

**応募資格** 東北6県(青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島)在住の高校生、または各県内の高校・中等教育学校在学中の高校生。  
※高等専門学校生は1年生から3年生までとします。同一高校からの応募人数制限は設けません。

**予選課題** 宮沢賢治「風の又三郎」(ページ数は現行の新潮文庫版に基づく)  
297ページ3行目「どっどど どどうど どどうど どどう、」より  
300ページ15行目「ああわかったあいつは風の又三郎だぞ。」まで

**審査方法** 山形大学教員で構成した予選審査委員会が提出された録音データによって審査します。

**応募方法** 上記課題文を朗読・録音し、下記応募受付まで郵送等で送付、あるいは直接持参にてお願いします。  
録音メディアは、CD-R/USBメモリのいずれかとします。メディアには氏名を明記してください。  
メディアは衝撃からの保護を施して、「高校生朗読コンクール応募」と朱書した封筒に入れてください。

**応募締切** 2019年6月28日(金)(当日必着)

- 備考**
- 応募の際、以下の項目について記した紙を同封してください。書式は自由です。
    - ①氏名(よみがな) ②性別 ③学校名、学年 ④自宅住所・郵便番号 ⑤自宅電話番号
    - ⑥(高校で取りまとめてご応募の場合)担当教員のお名前と電話・ファックス・電子メールアドレス等※記載情報は本学からの連絡のみに用い、他用途には転用しません。
  - 録音の最初に、学校名、学年、氏名を録音してください。
  - 予選の録音メディアの費用及び送料は自己負担とします。
  - 予選で大学に送付されたメディアは返却せず、本選後録音を消去します。
  - 予選は山形大学教員で構成した審査委員会が審査を行い、結果は全応募者に7月末までに自宅に郵送でお知らせします(学校でとりまとめて応募いただいた場合は、学校にも結果をお知らせします)。
  - 予選通過者が本選への参加となります。また、予選通過者名は山形大学学長記者会見で公表します。
  - 課題文中の地名や人名等の固有名詞の難読語等の読み方に限り問合せに応じます。

### ◎ 本選について

**日時** 2019年9月16日(月・祝) 13:00～17:00(時刻は予定)

**会場** 伝国の杜 置賜文化ホール(〒992-0052 山形県米沢市丸の内一丁目2番1号)

**課題** 宮沢賢治「風の又三郎」から、予選通過者それぞれに異なる部分を審査委員会が指定します。

- 備考**
- 予選の審査結果通知時にそれぞれの課題部分を指定します。
  - 作品の内容や量による審査の有利不利が生じないよう指定の際に配慮します。
  - 本選の審査は、山形大学教員で構成した審査委員会が行います。
  - 本選の上位3名を山形大学学長賞として表彰します。他に特別賞(会場賞)も設けます。
  - 各賞には賞状・記念品を贈呈します。
  - 本選は群読劇「銀河鉄道の夜」上演とあわせて催しとして一般公開します(一般入場者応募の詳細は7月末ごろ公表します)。
  - 出場者の旅費は自己負担とします。
  - 当日本選のリハーサルを行いますので、出場者は午前9時(予定)に会場へ集合してください(別途連絡します)。

**応募・お問合せ先** 山形大学 エンrollment・マネジメント部社会連携課 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12  
Tel:023-628-4844 Fax:023-628-4144 E-mail:embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
※電話によるお問合せは、平日9:00～17:00にお願いします。

平成31年（2019年）4月18日

## 公開講座「小説を書こう！」受講者を募集します

### 【本件のポイント】

- 小説家を目指す方も趣味で小説を楽しみたい方も受講できる公開講座
- 直木賞作家 高橋義夫氏が指導
- 6年連続の開講



### 【概要】

山形大学では平成26年度以降毎年開催している公開講座「小説を書こう！」を今年度も開講します。受講される方は自作未発表の小説を提出していただき、合評と直木賞作家の高橋義夫さんのアドバイスを受けることができます。山形大学学術研究員の山本陽史教授（日本文学）がサポートします。プロを目指す方も趣味として小説を書き続けたい方も奮ってご参加ください。

- 日 程：2019年6月5日（水）～8月7日（水） 毎週水曜全10回、各回18:00～19:30
- 会 場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館
- 受講料：一般 6,000円／大学生・高校生 2,000円（10回分） ※初回（6/5）に受付でお支払いください。
- 受講資格：高校生以上であればどなたでも受講できます。
- 講 師：高橋義夫氏（作家）1945年生まれ。早稲田大学文学部フランス文学科卒業。  
「狼奉行」で直木賞受賞。近著に『火付盗賊改』（中公新書）

山本陽史（山形大学教授（日本文学））

- 定 員：30名（申込順に受け付け、順次受講票をお送りします。）
- 受 付：4月22日（月）～定員に達するまで
- お申込み：WEB申込フォームまたはFAXにてお申し込みください。  
（電話・メールでのお申込は受け付けておりません。ご了承ください。）

〔WEB申込フォームでのお申込み〕

URL [http://campus3.kj.yamagata-u.ac.jp/entry/entry\\_em.asp](http://campus3.kj.yamagata-u.ac.jp/entry/entry_em.asp)

〔FAXでのお申込み〕 023-628-4144



（お問合せ先）

■お申込みに関すること  
エンrollment・マネジメント部EM企画課  
Tel：023-628-4062

■講座の内容に関すること  
学術研究院教授（EM部担当）山本陽史  
e-mail:yamaharu★yz.yamagata-u.ac.jp  
（メールアドレスの★は@に置き換えてください。）



学長特別講演会シリーズ  
山形から世界へ

# ポスト平成 キャリアは 自由に大胆に。

日時

2019年4月22日(月)

16:30～18:00

会場

山形大学小白川キャンパス A6  
基盤教育2号館2階 221・222

※当日は2会場同時中継で講演会を行います

問い合わせ・お申込みは

総務部広報室 (TEL.023-628-4010)



講師 **小林 暢子**  
(こばやし のぶこ) 氏

EYジャパンにて経営コンサルティング部門  
パートナーを務める。消費財セクターの国  
内・グローバル企業に対する戦略アドバイ  
スの提供と並行し、日英両方でビジネス、日本  
社会全般に関するオピニオン発信を手がける。  
日米にまたがる教育と勤務経験を持つ。東京  
大学、ハーバードビジネススクール卒業。



# 山形大学 学長特別講演会



「山形から世界に通用する技術やプロダクト・学術研究をどんどん生み出そう。そして、山形を元気にして地域創生につなげよう」というコンセプトを広く発信し、定着させるため、学生、教職員、高校生、一般市民を対象とした学長主催の特別講演会を定期的を開催しています。

## 第14回講演会

# 「ポスト平成 ～キャリアは自由に大胆に～」

【講師】 EYトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社

パートナー 小林 暢子（こばやし のぶこ）氏

これから社会に出られる皆さんには、今までの常識や固定観念にとらわれず、ぜひ自由な発想で生き生きと仕事をしていただきたい。ポスト平成の時代は、地方や女性というこれまでの「ハンディ」が逆に強みになる時代です。王道とは言えない私のキャリア紆余曲折20年から、直に学んだことと期待をお伝えしたいと思います。



### 参加申込について

氏名（ふりがな）、年齢（学生は学部・学科）を記入し、下記までメールでご連絡ください。

送信先： 山形大学広報室  
koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

### 交通・会場ご案内

JR山形駅下車、バスで約10分  
※駐車場がございません。

シャトルバスか公共交通機関をご利用下さい。

